

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200896		
法人名	社会福祉法人 錦福社会		
事業所名	グループホーム 錦		
所在地	岩国市錦町広瀬758番地		
自己評価作成日	平成24年7月24日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○共同生活の形態で、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、個々の生活を重視し、利用者一人ひとりの能力に応じた援助や出来ることはやっていただく様、自立を支援します。</p> <p>○市民の一員として地域活動(行事)には、積極的に参加し地域の交流を深めます。</p> <p>○平成23年4月より入院による空きベッドを利用して短期利用を開始しております。</p> <p>ベッドの安定的な稼働と貴重な社会資源を地域包括や居宅介護支援事業所と綿密な情報の交換を行い地域の社会資源の有効活用に取り組んでいきます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>三食とも事業所で食事づくりをされています。法人の管理栄養士の助言を参考にして、利用者の希望を聞いて献立を作られ、栄養バランスの採れた新鮮な食材を使った食事を提供しておられます。利用者は職員と一緒に毎日、買い物に行かれ、食材選びをしたり、調理の下ごしらえや、味見、盛り付けなどの食事の準備や食器洗いなどの後片づけを会話を楽しみながら、積極的にしておられます。前回の外部評価結果を活かして、本人の思いや意向の把握する記録の記入方法の改善や事業所独自のチェック表を作成して1ヵ月毎に振り返り、把握に努められ、利用者一人ひとりの意向に合わせた支援をしておられます。利用者の個人のプランターで野菜や花づくりをして収穫を楽しまれる人もおられるなど、希望が叶えられるよう支援されています。職員の意見を聞く機会として、職員会議の前に職員一人ひとりに会議で話し合いたい課題や検討事項を自由記述した意見書を提出してもらい、議題を決めて会議を行うことで、効率が良くなり、全職員の意見や提案を運営に反映させるように努めておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念と共に、事業所独自の理念を掲げ、ホーム内の目のつく所に掲示し、確認し合い、地域との関係を具体的に示す事により、その人らしい暮らしを支えるための一助となっている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、法人の理念を併せて、事業所内に掲示し、職員会議で理念の確認を行い、職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ADLの低下や加齢とともに参加人数は減少してきているが、近隣の高校でのお茶摘みに少人数でも参加し、交流している。	地域のふるさと祭りに利用者の作品を展示して見学し、地域の人と交流している。利用者は、公民館の図書コーナーに毎月通い、他の公民館利用者と話したり、自分の選んだ本を借りている。利用者の地元である芝桜祭に参加する他、法人主催の盆踊りに参加して、屋台の焼き鳥を食べたり、ジュースを飲んだり、打ち上げ花火を見たりして、参加をしている地域住民との交流を楽しんでいる。高校生と茶摘みをしたり、法人に来訪するボランティア(踊り、手話サークル、法話会)との交流もあるなど地域との関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義、考え方などを説明することで運営者、管理者、職員共に評価の意義について理解して、改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について職員に説明し、理解した上で、管理者、常勤職員を中心に、全職員で評価に取り組んでいる。前回の外部評価結果について話し合い、思いを把握する記録の記入用法(色を変える)についてや、応急手当、初期対応の訓練を実施するなど具体的など改善に取り組んでいる。自己評価についても、運営推進会議での意見を活かすように検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、消防団方面隊長、地域包括支援センター、錦地域包括支援センター、職員、家族、福祉員連絡協議会会長、ビハーラ山口会長、運営者が参加、2ヶ月に1回開催し情報交換を行っている。そこで出た意見を参考にサービスに生かしている。法人の盆踊り大会等各行事へ支援をいただいている。	これまでのメンバーに加え、新たに家族1名が増え、家族2名の参加となり、会議を年6回開催している。事業所の動向や活動報告などをして、意見交換を行っている。介護保険について知りたいとのメンバーからの意見で、次の開催時に資料を用意して話し合ったり、事業所の行事(ソーメン流しなど)へ地域の人が参加できるようにしたらという意見もあり、そこでの意見をサービス向上に活かすように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の会議には積極的に参加し、地域包括支援センターとも連絡を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の他、市の担当課には電話や直接出向いて、情報交換をしたり、相談し、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や職員会議に於いて勉強会を行い、職員同士が再確認を繰り返し取り組んでいる。玄関の施錠の弊害は全職員理解しているが、死角になる出入りを職員の手薄になる時間帯や配置状況により、やむを得ず施錠することもある。	マニュアルに沿って内部研修を行い、職員は正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。スピーチロックについては、職員同士が常に注意しあっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で虐待防止の研修を行い、適切なサービスが提供できるよう検討し、防止に努めている。また、新任職員入職時には、必ず研修を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、職員会議に於いて説明を行っている。現状は当ホームに於いて対象者がいないため制度活用の実態はない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退去時に十分な説明を行い、理解、納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話にて意見や要望を汲み取るとともに、運営推進会議に家族が参加することにより、意見等を伺う機会となっており、改善に結びつけている。また、第三者委員設置や外部機関は明示しており、苦情処理の手続き等明確に示している。	運営推進会議時、面会時、電話などで家族から意見や要望を聞いている。その内容を個人記録に記入して、職員会議で話し合い運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に於いて利用者に関する意見や提案について、常に職員から意見を聞いており、改善の必要な事案に対しては、早急に改善している。	職員会議で意見や提案を聞く機会を設ける他、日常業務の中や連絡帳でも職員から意見を聞いている。3ヵ月ごとにある個人面談の場も活用している。職員会議の前に、職員一人ひとりが意見書(会議で話し合いをし課題や検討事項を自由記述したもの)を提出し、管理者がまとめて会議の議題を決め、効率よく職員の意見を活かした会議を実施している。行事についての提案書もあるなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の評価表(能力開発カード)に基づき面接等を行い、法人の要求事項の到達度の評価や自己目標に対する進捗状況の評価することにより処遇に反映している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を提供するほか、法人内の研修にも積極的に参加し、研修内容は、職員会議で報告又は研修報告を回覧し全職員が共有するようにしている。	外部研修は研修の情報を職員に伝え、希望に応じてや、職員の段階に合わせて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命報告をし、資料を閲覧できるようにして共有している。法人研修(年2回)に職員が参加する他、内部研修は毎月の職員会議の中で、テーマを決めて30分程度実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会及び地域密着型サービス事業所との交流により、サービスの質の向上させるための取り組み、実態を具体的に学ぶ機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が安心できるような話には真剣に耳を傾けている。また、行動に対しても肯定的な姿勢で受け止められるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の状況を事前に見学してもらい、細部に渡り包み隠さず情報を提供し、疑問点等については申し込み時並びに随時電話や面会等で説明を行うように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネ等に相談し、必要な情報等入手し支援に繋げている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、花の水やりなど、出来るところは自身でやっていただき、1日と一緒に過ごすことで関わりを築き、お互いを思いやることを学んでいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族に日常の状況を報告し、協力していただくよう努め、行事がある時には事前に家族に連絡し、参加していただけるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣をお聞きし、長年住み慣れた地域を訪問(行事等)する、家族の協力で外出、外泊の機会を設け支援するよう努めている。	以前住んでいた地域の祭りに参加をしたり、家族の協力を得て、外泊、外食、墓参り、馴染みの理美容院の利用などの支援をしている。親しい人や家族に年賀状や手紙を出す支援をしたり、知人や近所の人が広報を持って訪ねてきたり、甥や姪、孫の来訪があるなど、関係が途切れないように支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身レベルや性格に関わらず、利用者同士と一緒に生活していけるよう支援している。(散歩やレクリエーション等)		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時には面会に行ったり、家族とも連絡を取っている。又他施設に移られた場合も時に様子を伺うなど行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や仕草から利用者の思いや意向を受け止めるように努め職員がその都度対応している。困難な場合は、家族にも相談、協力してもらい対応している。	アセスメントシートの活用や、日々の関わりの中での利用者の言葉や行動で思いの把握につながることを個人記録に色を変えて記入し、思いや意向の把握に努めている。事業所独自のチェック表を作成し、利用者との関わりの中で、重点的にしたいこと(会話、歩行、家事、スクワットなど)分かりやすく記入して、1か月ごとに振り返りをし、利用者一人ひとりの思いや意向に合わせた支援を検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境などについて入所前に情報収集し把握した上で、スタッフ全員が会話、ケアに反映させるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日常の過ごし方や心身の状態については、変化があれば随時連絡帳に記載し、検討を要すれば早急に対応するよう支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を事前に伺い、カンファレンスを実施、また担当職員の意見も踏まえケアプランを作成している。	把握している本人の思いや、家族の意見、利用者を担当している職員の意見、医師の意見などを参考にしてサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。介護計画に対しての実施記録を日々記録し、3か月ごとにモニタリングをしている。年2回カンファレンスを実施し、計画の期間に沿った見直しや、利用者の状況の変化に応じての見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録として生活の様子、職員の気づき、ケアプランの実践を個人記録に記入している。又記録に基づいて介護計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時における病院受診の送迎や付き添い、火災時等の対応、外出支援等、同法人の隣接する施設と連携を図りながら支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する施設と連携を取りながら地域の各種ボランティアや団体と交流を図ったり、図書館へ本を借りに行くなど支援をしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望や利用者に応じた受診を行っており、緊急時にも受信できるように体制を整えている。	本人や家族の了解を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、利用者一人ひとりに合わせた受診の支援をしている。歯科は必要時に往診で対応している。専門医等への受診は家族の協力を得て行い、必要な情報を提供するなど支援をしている。緊急時の夜間は救急車で対応し、日中は法人の看護師の協力を得ているなど適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の隣接する施設の看護職員の協力、支援を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行う等連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応の事例はない。家族、協力病院と相談している。	契約時に重度化や終末期に向けて事業所のできる対応について口頭で家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度、家族、医師、職員が話し合い方針を共有して、移設も含めて支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止マニュアルを作成し、職員全員で利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止のための対応に取り組んでいる。又緊急対応としても、救急講習会にも参加全員が対応できるようにしている。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、その場にいる職員で対応策を話し合い、職員会議で検討して、介護計画に反映するなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。普通救命講習を全職員が受講している。緊急時対応マニュアルに沿って、法人の看護師による実技講習と講義をうける他、ストレッチャの使い方や骨折時の対応、包帯の巻き方など訓練し、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに基づき同法人の隣接施設と連携を図りながら訓練等を実施している。	年2回法人の火災時避難訓練に参加している。市消防署の協力や地域消防団、地域の人(1名)の参加もある。事業所独自で、年4回、火災時模擬訓練を実施している。災害時に於いては、法人と地域の協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人への言葉使いに留意し、職員会議に於いてもプライバシーの保護や個人情報の取り扱いについても研修を重ね徹底し取り組んでいる。	接遇に関する外部研修を受けた職員による復命研修を実施し、全職員が共有している。利用者に対して、親しみを込めながらもなれなれしい態度にならないように敬意を払って接することを心がけ、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意思を聞く際、話される言葉を否定せず、最後まで聞いて差し上げ、状況に応じて意思を確認するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で過ごしていただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性に合わせて、おしゃれができるよう家族にも協力して頂き支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食調理し、会話を楽しみながら盛り付け、配膳、後片づけなど出来ることは行っている。	三食とも事業所で食事づくりをしている。法人の管理栄養士の助言を参考にして、利用者の希望を聞き、職員が献立をつくり、毎日食材の買い物をして、栄養バランスの取れた新鮮なものを使った食事を提供している。利用者は、買い物、調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、台拭き、食器洗いなどできることを職員と会話を楽しみながら一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み、同じものを食べている。おやつづくりや弁当を作ったの戸外での食事、ソーメン流しなど、食が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の隣接する施設の管理栄養士の意見も参考にし、体調、健康等に配慮しながら実施している。又水分確保が難しい時は、お茶やゼリーなど作り提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに口腔清潔支援を行っている。週2回のポリデントの実施、歯ブラシや義歯の清掃、保管の支援も実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄用品、排泄パターンを利用者個々に対し把握し、職員が統一したケアが行えるように取り組んでいる。	排泄援助リスト表を活用して、利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫と適度な運動により自然排便を促しているが、それでも排便が困難な利用者に対しては、主治医に相談し対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入所者の重度化、勤務シフトによる制限などで、週3回入浴して頂いている。入浴に対して拒否があった場合は、身体清拭を実施、入浴時間はゆっくり入浴していただいているよう支援している。	入浴は1日おきの午後に可能で、希望すれば毎日入浴できる。一人ひとりが、ゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。散歩後や汗をかいた後など、利用者の希望でシャワー浴で支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて、居室の中の家具等は配置されており、その時の個々に合わせたリズムで気持ちよく眠っていただけるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの服薬ファイルを保管確認し対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	加齢や認知症の進行により参加できる利用者が少なくなりつつあるが、家事、園芸、散歩、お経本の唱和、など個々に応じて様々な活用できる場を提供し、生活を楽しくいただいている。	テレビ視聴(連続ドラマ、韓流ドラマ、時代劇、歌番組、お笑いバラエティ、野球、相撲など)や、新聞や本を読む、輪投げ、的当ゲーム、パズル、クロスワードパズル、計算ドリル、漢字ドリル、ラジオ体操、棒体操、利用者個人のプランターに野菜や花を植え、水やりや草取り、収穫をする。食事の準備、後片づけ、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏、冬など時間帯を変えて、その日の身体の状況や本人の気分を十分に配慮し、散歩に出かけている。花見や紅葉狩り等、又家族の面会時にも外出の機会を設けていただいている。	毎日の散歩や食材に買い物、季節ごとの花見、ぶどう狩り、紅葉狩りなど戸外に出かけられるように支援している。家族と一緒に外食や外出、外泊などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人持ちの金銭に関しては、当事業所としては、支援していない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、利用者の希望により電話でのやり取りや、ハガキに利用者が文面を書いて送るなど、やりとりが出来るよう支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや畳を設置し、玄関や洗面所には季節の花を飾り、壁には月々の掲示物を、夏の日よけには、カーテンの替わりにすだれや植物を植えるなどし、季節感を出すように工夫している。	共有空間は明るく、壁面には季節に合わせた装飾がしてあり、行事の写真や利用者の作品などを飾ったり、献立メニューを利用者の手書きで毎日貼り出している。玄関前には、季節の花が植えてあり、リビングに季節の花を生け、窓から自然の移り変わりを眺める事ができるなど、季節感がある。オープンキッチンで調理する人の様子が見えたり、調理の音や匂いがしている。畳のスペースには、テレビや座卓があり、昼寝もできる。温度や湿度、換気、明るさ、音にも配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室と食堂、ソファ等を活用し、思い思いに過ごしていただいている。また一人で過ごしたい方は、居室へ戻られ過ごしておられる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の訪問時に予め個室の間取り等を確認していただき、自宅で使い慣れた家具やベッド、布団など持ち込んでいただいている。利用者からの要望については、家族と相談、配慮を行っている。	使い慣れた家具やベッド、仏壇、洋服掛け、生活用品、お気に入りの人形や好みの物などを持ち込んでいる。家族の写真や孫の結婚式の写真などを飾り、利用者が安心して暮らせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりがされているが、一部の設備については、利用者の身体状況が重度化した場合には、使用が難しくなるものもあり、改善の必要となる箇所もある。		